

平成8年度九州支部講演会開催報告

平成8年度の九州支部講演会が平成9年2月6日に福岡管区気象台で開催されたので、その概要を報告する。

中山支部長（福岡管区気象台）の挨拶の後、全部で19件（気象台関係6件、学校関係13件）の研究発表が行われた（題目は下記プログラムを参照）。今年は昨年より5件発表が増え、気象台関係からは集中豪雨の解析、メソ気象現象に伴う災害の被害調査や解析、さらには都市気候や視程についての発表が行われた。一方、学校関係からは、豪雨災害や降雨特性の調査、局地気候、大循環モデルを用いたオゾン変動、対流やプラネタリー波に関する数値実験、雲物理に関する基礎的な実験、さらには土壌水分に関する観測など、多彩な研究結果が発表された。

講演時間15分、質疑応答3分と、昨年より少し短縮はされたが、それでも全国大会に比較すれば余裕のある時間配分で、発表内容を詳しく説明し、かつ質疑も十分に出来るなど、支部活動の利点が十二分に発揮できたものと思っている。

講演会の最後に、九州大学理学部の高橋劭教授による、「雲物理から見た九州の豪雨機構」という題目の特別講演が行われた。九州にとって防災上最も重要な気象現象であり、さらに気象学的にも魅力的な研究テーマである集中豪雨について、ビデオゾンデを使用してアジア各地で精力的な観測・研究が行われている高橋先生の講演ということもあり、また気象台職員にとって興味深い題目ということで、会議室には多数の聴衆が詰めかけ大変な盛況であった。高橋先生は多数のOHPを使用して、アジア各地（中国、タイ、ボルネオ、ニューギニア、ミクロネシアなど）で得られた雲の微物理過程の観測結果を示し、アジアにおける豪雨の特徴を述べるとともに、これらの観測結果と九州における豪雨の特徴を結びつけ、鹿児島における平成5年の豪雨の成因などについて述べられた。最後には、集中豪雨の観測のための観測システムについて提言され、気象台職員の果たす役割などについても持論を展開された。

質疑応答も活発で、支部会員の啓発の一助となったのではないかと考えている。

その後の懇親会にも会員や気象台職員が多数参加し、特に、普段は交流の少ない大学関係者と気象台関係者との懇親を深めることができた。

今回の支部講演会の開催にあたっては、管区調査課の課員の皆様に、講演予稿集の作成から当日のお世話まで全面的にご協力を頂いた。皆様のご努力のおかげで充実した講演会を開催することができた。紙面をお借りしてお礼を申し上げる次第である。

（福岡管区気象台 藤谷徳之助）

九州支部講演会プログラム

1. 人吉・日田測候所の視程計データと目視視程の比較・検討：相川達朗（福岡管区気象台）
2. 長崎市中心部における夜間の局地気象観測(5)冷気湖内部で観測された気温振動：森 牧人*、小林哲夫（九州大学農学部）、武政剛弘（長崎大学工学部）
3. 鹿児島におけるヒートアイランド現象：清末英裕、福田佳男*（鹿児島地方気象台）
4. 山口県における最低気温のメッシュ値について：高山 成*、早川誠而（山口大学農学部）
5. 休閒圃場における土壌水分の空間変動特性について：永井秀幸*、松田 周、小林哲夫（九州大学農学部）
6. 表層土壌水分量を予測するための穴あきバケツモデルの提案：松田 周*、永井秀幸、小林哲夫（九州大学農学部）
7. 1996年5月22日玖珠町・九重町で発生した瞬発性強風（I）：花宮廣務、松浦健次*、岩本博之（大分地方気象台）
8. 1996年5月22日玖珠町・九重町で発生した瞬発性強風（II）：松浦健次（大分地方気象台）
9. 風洞実験による着氷電荷発生機構の再吟味：宮脇久仁子*、高橋 劭（九州大学理学部）
10. 水平温度傾度場中の対流運動：大河内康正（八代工業高等専門学校）
11. 大気大循環モデルを用いたオゾン変動に関する数値実験：吉川 実*、廣岡俊彦、宮原三郎（九州大学理学部）、栢原孝浩（防災科学技術研究所）

12. オゾンホール深度と南半球成層圏最終昇温の関係：山口達也*, 廣岡俊彦 (九州大学理学部)
13. プラネタリー波の碎波とそれに伴う内部重力波発生：四ツ谷直紀*, 宮原三郎 (九州大学理学部)
14. 山口県における豪雨災害危険地域の評価と区分に関する研究：張 継権*, 早川誠而(山口大学農学部)
15. 山口県における豪雨による被害度の評価及び豪雨災害発生年の予測に関する研究：張 継権*, 早川誠而 (山口大学農学部)
16. 大雨の主成分分析：宮田 浩(鹿児島地方気象台)
17. 鹿児島における降雨の特徴：林理三雄, 安田 茂, 牧瀬哲夫* (鹿児島大学工学部)
18. 島原半島の降雨特性(台風接近時の東風の場合)：矢野兼三, 白崎初未* (長崎海洋気象台)
19. 福岡市とその周辺地域における降雨特性について：脇水健次*, 鈴木義則, 松井桂子(九州大学農学部), 西山浩司, 神野健二, 松田篤志(九州大学工学部)

特別講演

「雲物理から見た九州の豪雨機構」

高橋 劭 (九州大学理学部)

生物・地球環境試料の超長期保存ネットワークに関する国際ワークショップ論文募集

開催日：1997年11月3日～6日

開催地：

大阪府豊中市, 千里ライフサイエンスセンター

後 援：

大阪府, 日本万国博覧会記念協会 (以上決定),
(社) 日本気象学会, (他約20学協会予定)

目 的：

西暦2001年を期して, 南極の高地ドーム Fuji 上に20世紀の生物・地球環境を代表する試料を自然界冷凍保存し, 超長期にわたる遺伝子レベルでの地球環境影響評価に役立てる。

会議用語：英語

アブストラクト：

150-250ワード(締切1997年6月15日ですが関心のございます方は, 是非お問い合わせください。)

関連分野：

生物, 環境科学 (とくに, 生物, 環境試料保存, 古環境の再現, 生物による環境モニタリング等), 生命, 環境, 極地科学, 等

申込先：組織委員長 柴田俊一

問い合わせ：実行委員長 江藤剛治

〒577 東大阪市小若江3-4-1 近畿大学内

Tel : 06-721-2332

Fax : 06-730-1320

(文部省科研費重点領域研究 (A) 申請計画研究参加者募集：平成6, 7年度総合(A), 平成8年度基盤(B)に引き続き, 重点領域 (A) に応募予定 (申請期限：平成9年9月)。研究者と課題募集。問い合わせ先は上記に同じ。)